

増収技術と省力栽培技術を導入した ブドウ「シャインマスカット」の新技术導入栽培体系

園芸栽培部 果樹チーム TEL:022-383-8134

研究の目的

宮城県では、ブドウ生育期間中の日照時間が主要産地と比べて少なく、「シャインマスカット」の適当な着果量は、全国的水準よりやや低くなっています。

そこで、ブドウ「シャインマスカット」の栽培において光反射シートを利用した増収技術と作業時間を短縮することができる省力栽培技術を組み合わせた新技术導入栽培体系を開発しました。

研究成果

新技术導入栽培（表1）において、着房数を慣行から3割増やしても作業時間は慣行と同等となり、収量が3割増加でき（表2）、糖度と果皮色が慣行よりも高くなります。

新技术導入栽培の費用は、光反射シートなどの資材費が慣行栽培に比べて増えますが、収量が3割増加するため、利潤は慣行栽培より多くなります。

表1 新技术導入栽培の概要

	光反射シート設置	花穂整形作業	新梢・副梢管理		
			開花前後	ジベレリン処理後	果粒軟化期前
新栽培体系	開花前に棚下へ光反射シートを敷設する。	花穂整形器を利用。	展葉10枚時にフラスター液剤1000倍液を全面散布。開花始期に未展開葉を摘心。	新梢先端から発生した副梢は主枝の中間地点まで伸ばして摘心する。その他の副梢は房基2~3枚、房先1枚残して摘心する。	摘心作業を行わない。

表2 栽培方法の違いが収量に及ぼす影響

年次	試験区	1樹当たり着房数(房)	平均1房重(g)	1樹当たり収量(kg)	10a当たり換算収量(kg)	増収率(%)
平成28年	新技术導入栽培	181.5	795.4	144.4	2598.6	37.3
	慣行栽培	139.3	754.9	105.2	1893.3	
	有意差	*	ns	*	*	
平成29年	新技术導入栽培	183.0	749.8	137.2	2469.8	31.6
	慣行栽培	143.3	727.5	104.3	1876.8	
	有意差	**	ns	**	**	



利活用の留意点等

- ・平成30年3月作成の「新技术を導入した『シャインマスカット』栽培マニュアル」をご覧ください。インターネット上で公開しています。
- ・農林水産省委託事業 食料生産地域再生のための先端技術展開事業「被災地の早期復興に資する新品種・新技术を利用した果樹生産・利用技術の実証研究」（平成27年～29年）による成果です。

より詳しい内容は「普及に移す技術」第93号（平成30年発行）「増収技術と省力栽培技術を導入した「シャインマスカット」の栽培体系」をご覧ください。

http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/hukyuu-index.html



宮城県農業系三場所